

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月14日

【四半期会計期間】 第5期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社九州フィナンシャルグループ

【英訳名】 Kyushu Financial Group, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 笠原 慶久

【本店の所在の場所】 鹿児島市金生町6番6号
(上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は下記にて行っております。)
熊本市中央区練兵町1番地

【電話番号】 096(326)5588

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営企画部長 林田 達

【最寄りの連絡場所】 熊本市中央区紺屋町一丁目13番地5
株式会社九州フィナンシャルグループ

【電話番号】 096(326)5588

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経営企画部長 林田 達

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人 福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		2018年度 第3四半期 連結累計期間	2019年度 第3四半期 連結累計期間	2018年度
		(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
経常収益	百万円	127,558	127,372	170,322
経常利益	百万円	25,907	24,547	33,717
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	17,400	16,483	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	-	-	22,202
四半期包括利益	百万円	5,762	22,555	-
包括利益	百万円	-	-	27,012
純資産額	百万円	632,200	666,440	652,317
総資産額	百万円	10,445,091	10,924,381	10,444,589
1株当たり四半期純利益	円	38.49	36.55	-
1株当たり当期純利益	円	-	-	49.12
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	円	-	-	-
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	-	-	-
自己資本比率	%	5.9	6.0	6.2

		2018年度 第3四半期 連結会計期間	2019年度 第3四半期 連結会計期間
		(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	11.71	11.82

- (注) 1 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」は、潜在株式がないため記載しておりません。
 3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末非支配株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。

なお、2019年4月1日より株式会社肥後銀行及び株式会社鹿児島銀行において、銀行本体での信託業務の取り扱いを開始しております。

また、2019年10月2日に、当社の連結子会社である株式会社肥後銀行において「JR九州フィナンシャルマネジメント株式会社の株式を90%取得し、「JR九州FGリース株式会社」として連結子会社化しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態及び経営成績に異常な変動等はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」に重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

〔財政状態〕

当第3四半期連結会計期間末における財政状態につきましては、総資産は貸出金の増加等により、前連結会計年度末比4,797億円増加し10兆9,243億円となり、純資産は前連結会計年度末比141億円増加し6,664億円となりました。

主要勘定の残高につきましては、預金は個人預金の増加等により、前連結会計年度末比767億円増加し8兆3,915億円、譲渡性預金は公共預金の増加等により、前連結会計年度末比1,651億円増加し4,179億円となりました。

貸出金は公共向けの増加等により、前連結会計年度末比3,063億円増加し7兆1,595億円となりました。

有価証券は外国証券の増加等により、前連結会計年度末比1,314億円増加し2兆1,443億円となりました。

〔経営成績〕

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、経常収益は株式等売却益の減少によるその他経常収益の減少等により、前年同期比1億85百万円減少し1,273億72百万円となりました。

一方、経常費用は、外貨調達コストの増加による資金調達費用の増加等により、前年同期比11億74百万円増加し1,028億25百万円となりました。

この結果、経常利益は前年同期比13億60百万円減少し245億47百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比9億16百万円減少し164億83百万円となりました。

セグメント情報ごとの業績を示すと次のとおりであります。

a. 銀行業

経常収益は前年同期比17億47百万円減少し1,037億32百万円となり、セグメント利益は前年同期比9億78百万円増加し284億45百万円となりました。

b. リース業

経常収益は前年同期比6億74百万円増加し238億53百万円となり、セグメント利益は前年同期比2億93百万円減少し8億74百万円となりました。

c. その他

経常収益は前年同期比14百万円減少し68億13百万円となり、セグメント利益は前年同期比1億10百万円減少し7億18百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は前年同期比26億76百万円減少して661億15百万円、信託報酬は前年同期比26百万円増加して26百万円、役務取引等収支は前年同期比12億72百万円減少して92億30百万円、特定取引収支は前年同期比2億29百万円減少して3億49百万円、その他業務収支は前年同期比85億42百万円増加して90億83百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額()	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	64,165	4,625	-	68,791
	当第3四半期連結累計期間	61,930	4,184	-	66,115
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	66,487	7,841	21	74,307
	当第3四半期連結累計期間	63,863	11,001	16	74,847
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	2,322	3,216	21	5,516
	当第3四半期連結累計期間	1,932	6,817	16	8,732
信託報酬	前第3四半期連結累計期間	-	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	26	-	-	26
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	10,532	29	-	10,502
	当第3四半期連結累計期間	9,274	43	-	9,230
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	16,274	99	-	16,373
	当第3四半期連結累計期間	15,685	87	-	15,772
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,741	128	-	5,870
	当第3四半期連結累計期間	6,411	131	-	6,542
特定取引収支	前第3四半期連結累計期間	39	539	-	578
	当第3四半期連結累計期間	5	344	-	349
うち特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	39	539	-	578
	当第3四半期連結累計期間	5	344	-	349
うち特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-	-
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	5,456	4,915	-	541
	当第3四半期連結累計期間	7,398	1,685	-	9,083
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	27,934	1,116	-	29,050
	当第3四半期連結累計期間	28,453	3,357	-	31,810
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	22,478	6,031	-	28,509
	当第3四半期連結累計期間	21,054	1,672	-	22,726

(注) 1 「国内業務部門」は当社及び連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

2 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間3百万円、当第3四半期連結累計期間2百万円)を控除して表示しております。

3 相殺消去額は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息額であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

役務取引等収益は、前年同期比 6 億円減少して157億72百万円となりました。

役務取引等費用は、前年同期比 6 億72百万円増加して65億42百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	16,274	99	16,373
	当第3四半期連結累計期間	15,685	87	15,772
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	5,696	3	5,699
	当第3四半期連結累計期間	5,590	0	5,590
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	5,417	94	5,511
	当第3四半期連結累計期間	5,396	85	5,481
うち信託関連業務	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	26	-	26
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	1,199	-	1,199
	当第3四半期連結累計期間	1,102	-	1,102
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	370	-	370
	当第3四半期連結累計期間	371	-	371
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	86	-	86
	当第3四半期連結累計期間	84	-	84
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	351	1	353
	当第3四半期連結累計期間	333	1	334
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,741	128	5,870
	当第3四半期連結累計期間	6,411	131	6,542
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,292	117	1,410
	当第3四半期連結累計期間	1,281	123	1,405

(注) 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

国内・国際業務部門特定取引の状況

特定取引収益は、前年同期比 2 億29百万円減少して 3 億49百万円となりました。

特定取引費用は、前期及び当期ともに該当ありません。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	39	539	578
	当第3四半期連結累計期間	5	344	349
うち商品有価証券 収益	前第3四半期連結累計期間	39	539	578
	当第3四半期連結累計期間	5	341	346
うち特定取引 有価証券収益	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定金融 派生商品収益	前第3四半期連結累計期間	-	0	0
	当第3四半期連結累計期間	-	2	2
うちその他の 特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
うち商品有価証券 費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定取引 有価証券費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
うち特定金融 派生商品費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-
うちその他の 特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	-	-	-
	当第3四半期連結累計期間	-	-	-

(注) 1 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。

2 内訳科目はそれぞれの収益と費用を相殺し、収益が上回った場合には収益欄に、費用が上回った場合には費用欄に、上回った純額を計上しております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	8,212,729	13,286	8,226,016
	当第3四半期連結会計期間	8,376,661	14,877	8,391,538
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	5,228,621	-	5,228,621
	当第3四半期連結会計期間	5,445,636	-	5,445,636
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,959,928	-	2,959,928
	当第3四半期連結会計期間	2,913,417	-	2,913,417
うちその他	前第3四半期連結会計期間	24,178	13,286	37,465
	当第3四半期連結会計期間	17,607	14,877	32,484
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	364,183	-	364,183
	当第3四半期連結会計期間	417,913	-	417,913
総合計	前第3四半期連結会計期間	8,576,913	13,286	8,590,200
	当第3四半期連結会計期間	8,794,574	14,877	8,809,451

(注) 1 「国内業務部門」は連結子会社の円建取引、「国際業務部門」は連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引等は国際業務部門に含めております。

2 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

3 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況
業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内(除く特別国際金融取引勘定分)	6,852,469	100.00	7,159,503	100.00
製造業	458,144	6.69	451,236	6.30
農業、林業	83,417	1.22	87,095	1.22
漁業	19,519	0.28	19,850	0.28
鉱業、採石業、砂利採取業	7,673	0.11	6,858	0.09
建設業	161,370	2.35	162,157	2.26
電気・ガス・熱供給・水道業	201,506	2.94	202,095	2.82
情報通信業	67,694	0.99	61,556	0.86
運輸業、郵便業	186,490	2.72	174,546	2.44
卸売業、小売業	606,539	8.85	619,253	8.65
金融業、保険業	271,524	3.96	264,688	3.70
不動産業、物品賃貸業	861,423	12.57	917,788	12.82
各種サービス業	752,278	10.98	763,792	10.67
政府・地方公共団体	1,118,728	16.33	1,216,423	16.99
その他	2,056,157	30.01	2,212,160	30.90
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	6,852,469	-	7,159,503	-

(注) 「国内」とは、連結子会社であります。

(2) 経営方針・経営戦略等若しくは指標等

当第3四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等若しくは指標等について重要な変更等はありません。

(3) 主要な設備

前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設、除却等のうち、「九州フィナンシャルグループ福岡ビル」は、2019年7月22日に開業いたしております。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000,000,000
計	1,000,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	463,375,978	463,375,978	東京証券取引所 市場第一部 福岡証券取引所	株主としての権利内容に 制限のない、標準となる 株式。 単元株式数は100株。
計	463,375,978	463,375,978	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年12月31日	-	463,375	-	36,000	-	9,000

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,862,800	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。 単元株式数は100株。
完全議決権株式(その他)	普通株式 451,165,100	4,511,651	同上
単元未満株式	普通株式 348,078	-	同上
発行済株式総数	463,375,978	-	-
総株主の議決権	-	4,511,651	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,300株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が13個含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己保有株式が75株含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 当社	鹿児島市金生町6番6号	11,862,800	-	11,862,800	2.56
計	-	11,862,800	-	11,862,800	2.56

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(1982年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)及び第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
現金預け金	1,211,471	1,136,196
コールローン及び買入手形	314	50,344
買入金銭債権	10,557	13,655
特定取引資産	1,183	852
金銭の信託	18,621	19,483
有価証券	2,012,855	2,144,344
貸出金	¹ 6,853,138	¹ 7,159,503
外国為替	12,419	11,828
リース債権及びリース投資資産	52,606	65,289
その他資産	191,314	228,640
有形固定資産	98,306	109,099
無形固定資産	9,317	11,155
退職給付に係る資産	5,857	6,827
繰延税金資産	972	980
支払承諾見返	33,893	35,282
貸倒引当金	68,241	69,102
資産の部合計	10,444,589	10,924,381
負債の部		
預金	8,314,830	8,391,538
譲渡性預金	252,727	417,913
売現先勘定	207,630	281,722
債券貸借取引受入担保金	479,347	577,698
特定取引負債	-	7
借入金	402,402	443,307
外国為替	172	68
信託勘定借	-	1,676
その他負債	81,540	87,457
退職給付に係る負債	2,785	2,221
睡眠預金払戻損失引当金	2,267	2,041
偶発損失引当金	484	523
特別法上の引当金	0	0
繰延税金負債	10,114	12,420
再評価に係る繰延税金負債	4,076	4,060
支払承諾	33,893	35,282
負債の部合計	9,792,272	10,257,940

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
資本金	36,000	36,000
資本剰余金	198,362	199,075
利益剰余金	366,087	377,189
自己株式	5,270	7,731
株主資本合計	595,178	604,532
その他有価証券評価差額金	58,987	71,572
繰延ヘッジ損益	7,915	15,234
土地再評価差額金	5,855	5,818
退職給付に係る調整累計額	3,575	2,866
その他の包括利益累計額合計	53,350	59,290
非支配株主持分	3,788	2,616
純資産の部合計	652,317	666,440
負債及び純資産の部合計	10,444,589	10,924,381

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
経常収益	127,558	127,372
資金運用収益	74,307	74,847
(うち貸出金利息)	52,582	53,463
(うち有価証券利息配当金)	21,437	21,083
信託報酬	-	26
役務取引等収益	16,373	15,772
特定取引収益	578	349
その他業務収益	29,050	31,810
その他経常収益	1 7,247	1 4,565
経常費用	101,650	102,825
資金調達費用	5,520	8,735
(うち預金利息)	686	581
役務取引等費用	5,870	6,542
その他業務費用	28,509	22,726
営業経費	56,054	57,920
その他経常費用	5,695	6,899
経常利益	25,907	24,547
特別利益	113	32
固定資産処分益	113	32
その他の特別利益	-	0
特別損失	186	194
固定資産処分損	154	165
減損損失	31	28
その他の特別損失	0	-
税金等調整前四半期純利益	25,835	24,386
法人税、住民税及び事業税	8,857	8,298
法人税等調整額	735	472
法人税等合計	8,121	7,826
四半期純利益	17,713	16,559
非支配株主に帰属する四半期純利益	313	75
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,400	16,483

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	17,713	16,559
その他の包括利益	11,951	5,996
その他有価証券評価差額金	11,652	12,605
繰延ヘッジ損益	929	7,318
退職給付に係る調整額	631	708
四半期包括利益	5,762	22,555
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,483	22,460
非支配株主に係る四半期包括利益	278	95

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

連結の範囲の重要な変更

2019年10月2日に、当社の連結子会社である株式会社肥後銀行においてJR九州フィナンシャルマネジメント株式会社の株式を90%取得し、JR九州FGリース株式会社として当第3四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
破綻先債権額	3,098百万円	5,927百万円
延滞債権額	81,465百万円	77,107百万円
3ヵ月以上延滞債権額	179百万円	275百万円
貸出条件緩和債権額	46,756百万円	50,288百万円
合計額	131,500百万円	133,598百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
株式等売却益	5,547百万円	3,701百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	5,407百万円	5,491百万円
のれんの償却額	- 百万円	935百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月11日 取締役会	普通株式	2,727	6.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金
2018年11月13日 取締役会	普通株式	2,709	6.00	2018年9月30日	2018年12月7日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	2,709	6.00	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年11月12日 取締役会	普通株式	2,709	6.00	2019年9月30日	2019年12月10日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業			リース業	計				
	肥後銀行	鹿児島銀行	小計						
経常収益									
外部顧客に対する 経常収益	55,184	49,102	104,286	21,903	126,190	3,672	129,863	2,304	127,558
セグメント間の内部 経常収益	360	832	1,192	1,274	2,467	3,155	5,623	5,623	-
計	55,544	49,935	105,479	23,178	128,658	6,827	135,486	7,928	127,558
セグメント利益	13,847	13,618	27,466	1,167	28,634	829	29,463	3,556	25,907

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等があります。

3 外部顧客に対する経常収益の調整額 2,304百万円には、パーチェス法に伴う経常収益調整額 2,308百万円等が含まれております。

4 セグメント利益の調整額 3,556百万円には、パーチェス法に伴う利益調整額 2,972百万円等が含まれております。

5 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業			リース業	計				
	肥後銀行	鹿児島銀行	小計						
経常収益									
外部顧客に対する 経常収益	54,918	47,485	102,403	22,508	124,912	3,816	128,729	1,356	127,372
セグメント間の内部 経常収益	386	941	1,328	1,344	2,672	2,996	5,669	5,669	-
計	55,305	48,426	103,732	23,853	127,585	6,813	134,398	7,025	127,372
セグメント利益	15,565	12,880	28,445	874	29,319	718	30,037	5,490	24,547

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。
 2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等
 あります。
 3 外部顧客に対する経常収益の調整額 1,356百万円には、パーチェス法に伴う経常収益調整額 1,403百万円
 等が含まれております。
 4 セグメント利益の調整額 5,490百万円には、パーチェス法に伴う利益調整額 3,854百万円及びのれんの償
 却額 935百万円等が含まれております。
 5 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、固定資産の減損損失額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、のれんの変動額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 JR九州フィナンシャルマネジメント株式会社

事業の内容 総合リース業、キャッシュマネジメントサービス、財務シェアードサービス

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループは、グループ経営理念及び目指す姿「お客さまにとって九州トップの総合金融グループ」の実
 現に向け、2018年4月から「第2次グループ中期経営計画」をスタートしております。

今般の株式取得により、中期経営計画の戦略の柱である「地域総合金融機能」の更なる高度化と「地域産業
 振興機能」の一層の強化に取り組み、より充実したソリューションをお客さまに提供するとともに当社グルー
 プの経営基盤強化と企業価値の更なる向上を図ることができると判断いたしました。

なお、JR九州フィナンシャルマネジメント株式会社が行っているJR九州グループ向けのキャッシュマネ
 ジメントサービス事業及び財務シェアードサービス事業は、2019年10月1日を効力発生日とする吸収分割によ
 り、九州旅客鉄道株式会社の子会社であるJR九州ビジネスパートナーズ株式会社に承継されております。

(3) 企業結合日

2019年10月2日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

JR九州FGリース株式会社

(6) 取得した議決権比率

90%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

株式会社肥後銀行が、現金を対価として株式を取得したことによります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2019年12月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の守秘義務により非開示とさせていただきますが、第三者による株式価値の算定結果を勘案し決定しており、公正な価格と認識しております。

4. 主要な取得関連費用の内訳及び金額

デューデリジェンス費用等 28百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

935百万円

(2) 発生原因

被取得企業に係る持分額と取得価額との差額により、発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

当連結会計年度に一括償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1) 資産の額

資産合計	18,126百万円
うち、その他資産（営業貸付債権）	4,536百万円
うち、リース債権及びリース投資資産	10,138百万円

(2) 負債の額

負債合計	17,641百万円
うち、借入金	16,647百万円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	38.49	36.55
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	17,400	16,483
普通株式に係る親会社株主に 帰属する四半期純利益	百万円	17,400	16,483
普通株式の期中平均株式数	千株	452,055	450,989

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

2019年11月12日開催の取締役会において、第5期の中間配当につき次のとおり決議しました。

	普通株式
中間配当額	2,709百万円
1株当たりの中間配当金	6.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月10日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

株式会社 九州フィナンシャルグループ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平 木 達 也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 窪 田 真 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社九州フィナンシャルグループの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社九州フィナンシャルグループ及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。